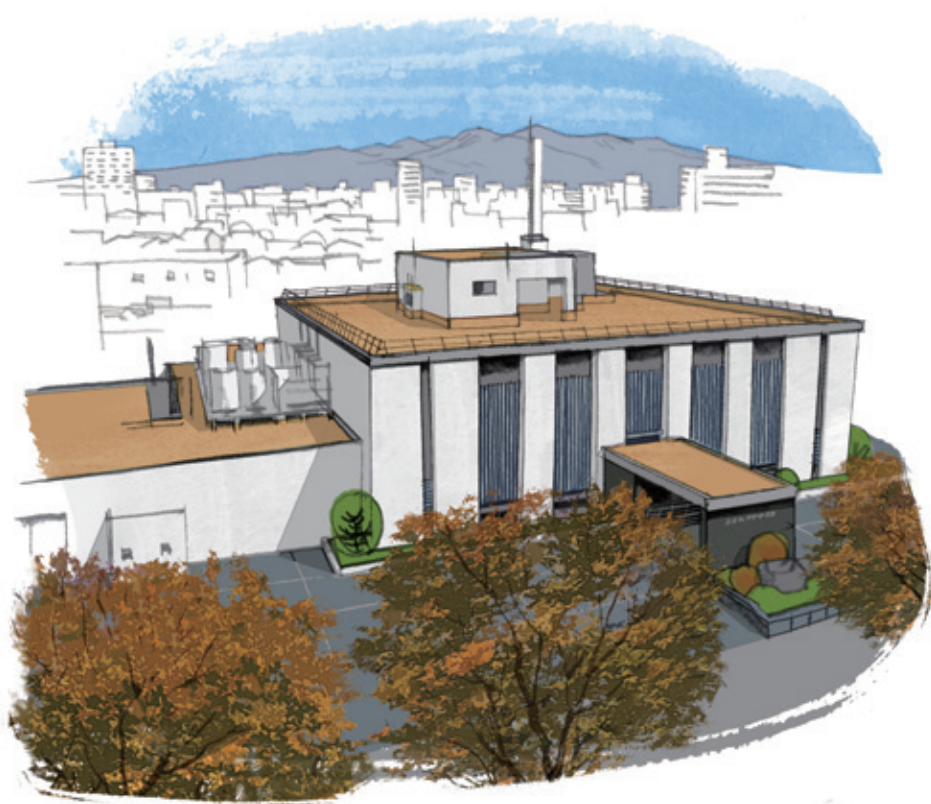


# にちぎん

2020 NO.63

秋



インタビュー 扉を開く

**野沢雅子** 声優・女優

日常の観察が生きる「声の演技」

地域の底力

**新潟県十日町市**

過疎化する地域にアートの力が活性化をもたらす新潟県十日町市

対談 守・破・創

**川井郁子** バイオリニスト・作曲家

**鈴木人司** 日本銀行政策委員会 審議委員

異なるものとの出会いが生む自分だけの新しい世界の音色

エッセイ “おかね”を語る

**大竹文雄** 大阪大学大学院経済学研究科教授 理想的な「おかね」の貯め方

お金を貯める目的には、様々なものがある。金融資産を保有する目的で一番多いのは、「老後の生活資金にあてるため」というものだ（二〇一九年金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」）。六五・八%の人がこの目的のために金融資産をもっている。第二位は、「病気や不時の災害への備え」で五八・〇%、第三位は、「こどもの教育資金」の三二・〇%である。

ちなみに、一九八五年では、第一位は、「病気や不時の災害への備え」で七七・二%、第二位は、「こどもの教育資金」の四三・〇%、第三位に「老後の生活資金」の四二・五%であった。老後の生活費のためにお金を貯めている人たちは、一九八〇年代後半になると「こどもの教育資金」を追い越して第二位になり、二〇一三年にはそれまで一位だった「病気や不時の災害への備え」を追い越した。お金の保有目的にも少子高齢化が反映されているのだ。

人々は、引退後安心して生活できるようにするために貯金をしている。では、どうすれば老後生活のためのお金を貯めることができるだろう。経済学では、所得が高いときの生活水準と所得が減ったときの生活水準があまり変わらないように、現役時代にお金を貯めると考える。まず、生涯の所得パターンを予想して、それを



絵・江口修平

## 理想的な「おかね」の貯め方

大竹文雄

平準化するように毎月の消費額を決める。そして、その時々所得と決めておいた消費額の「差額」を貯蓄する。これが老後になっても生活水準を落とさないという意味では理想的な方法だ。確かに、賢いお金の貯め方だ。余裕のあるときにお金を貯めて、余裕がないときは貯蓄を取り崩す。

お金がないときは無理して貯めなくてよい、というのはありがたいルールだ。しかし、この理想的な方法には落とし穴がある。それは、余裕のあるときに本当にお金を貯められるのかという問題だ。私たちは、遠い将来の老後のためのお金を貯めるといふ重要性は知っているし、計画はできる。ところが、所得が増えて貯蓄する余裕があるときに、貯蓄を後回しにしてしまうのも人間だ。遠い老後のための貯蓄は先延ばしして、今を楽しむために増えた所得を使ってしまうという誘惑に負けてしまうのだ。それが続くと、結局、老後のためのお金が貯まらないことになる。

これを防ぐには、一見、非合理的だが、所得が多いときも少ないときも一定額の貯蓄を続けることだ。これなら、老後のためのお金が確実に貯められる。将来の自分が誘惑に負けることを予期してルールを設定することが実際には「ベストな選択」になる。

おおたけ・ふみお●大阪大学大学院経済学研究科 教授。1961年京都府生まれ。大阪大学博士（経済学）。大阪大学助手、大阪府立大学講師、大阪大学社会経済研究所教授等を経て、2018年から現職。専門は労働経済学・行動経済学。格差問題の実態と原因を実証した著書『日本の不平等—格差社会の幻想と未来』で日本学士院賞、サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞などを受賞。著書に『競争と公平感』『競争社会の歩き方』『経済学は役に立ちますか？（共著）』『医療現場の行動経済学（共著）』『行動経済学の使い方』など多数。





- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
理想的な「おかね」の貯め方 大阪大学大学院経済学研究科教授 大竹文雄

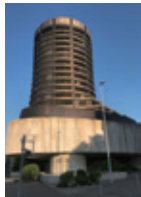
- 4 インタビュー／扉を開く  
野沢雅子 声優・女優  
日常の観察が生きる「声の演技」



- 10 地域の底力——新潟県十日町市  
過疎化する地域にアートの力が活性化をもたらす  
新潟県十日町市



- 18 対談／守・破・創  
川井郁子 バイオリニスト・作曲家  
鈴木人司 日本銀行政策委員会 審議委員  
異なるものとの出会いが生む自分だけの新しい世界の音色



- 22 FOCUS → BOJ 63 日本銀行金融機構局 国際課の仕事  
世界の金融システム安定への貢献

日本銀行のレポートから

- 26 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) — 2020年7月—

- 28 「地域経済報告」(さくらレポート) — 2020年7月—

- 29 トピックス  
令和2年7月豪雨に伴う災害に対する日本銀行の対応 ほか

※本誌は9月3日(木)までの情報をもとに掲載しています。

## 表紙のことば

日本銀行前橋支店は、関東で初めての支店として、昭和十九年（一九四四）十二月に開設されました。空襲が激しさを増し、本店から北関東への現金輸送が困難となっていく中、時の洪澤敬三総裁が、本店からの現金供給拠点の確保や、利根川の橋梁が爆撃された際の北関東の金融面での孤立への懸念から、当地域の金融の拠点であった前橋に急ぎよ支店開設を決めました。

初代店舗（現在の前橋市千代田町）は、支店開設から八カ月足らずの昭和二十年（一九四五）八月、大空襲により外側部分と金庫室を残して焼失し、職員から殉職者も出る大きな被害を受けましたが、空襲の二日後には営業を再開しました。

二代目となる表紙の現店舗は、昭和四十年（一九六五）に、前橋市大手町に新築移転したものです。当地は行政の中心地でありながら、近くを利根川が流れ、背後に赤城山がひかえるなど自然豊かな中に立地しています。前橋支店は、今後も北関東経済の発展に貢献してまいります。



表紙・画 北村公司

声優・女優

# 野沢雅子

NOZAWA Masako

『ドラゴンボール』（注1）の孫悟空や『ゲゲゲの鬼太郎』（注2）の鬼太郎など、数々の大ヒットアニメで声優として活躍する野沢雅子さん。舞台俳優を目指した一〇代のころ、洋画の吹き替えから声優の世界に入り、半世紀以上のキャリアを積んできた。長年の経験から、どのような演技メソッドを体得したのか。「声で演じる」ことで生まれた喜び、そしてアニメや声優の力など、印象深いエピソードとともに語っていただいた。



# 日常の観察が生きる「声の演技」

## 洋画の生吹き替えからアニメの世界へ

—— 幼いころから夢は女優、なかでも舞台女優を目指されたそうですね。

野沢 ええ。物心がつく前から子役として映画に出ていました。叔母（佐々木清野<sup>きよの</sup>）が松竹蒲田撮影所の大スターだった。それで、私のマネージャーをしてきていたんです。私にとっては普通の叔母でしたけど、小津安二郎監督のことを「おっ

ちゃん」と呼んだりしていて、若いころはすごかったんだよと聞かされていました。

叔母は私に自分と同じように映画女優にさせたいと思っていたようでした。でも、私は舞台の芝居がやりたくて、高校生のときに叔母に反対されながらも劇団に入ったんです。映画女優より、お客さんが目の前にいる舞台の役者になりました

かった。セリフを間違えても撮り直しができない、一回一回が勝負の舞台の世界に進むんだ、などと今から思うと生意気なことを言っていました。

—— 声優の活動は、どのようなきっかけで始められたのですか。

野沢 昭和三十年当時は、まだ声優という言葉すらありませんでした。所属していた劇団から声がかかり、アルバイト感覚でテレビの洋画の吹き替えをしたのが最初です。モニター

を見ながら原音を聞いて、声を当てます。今と違って全て生本

（注1）ドラゴンボール

鳥山明が『週刊少年ジャンプ』で連載し、大ヒットした漫画をテレビアニメ化。一九八六年二月から八九年四月まで、オリジナルの展開も加えながら放映された。続編の『ドラゴンボールZ』も八九年四月から九六年一月まで放映。野沢さんは孫悟空に加え長男・孫悟飯と次男・孫悟天の声も担当した。

（注2）ゲゲゲの鬼太郎

水木しげるの漫画を原作とする妖怪アニメ。第一シリーズはモノクロ作品で、一九六八年一月から六九年三月まで放映された。第一シリーズに加えて、七一年十月から七二年九月の第二シリーズでも野沢さんは鬼太郎を演じた。

番ですから、失敗したら失敗したまま放送されます。私はまだ一〇代。怖いもの知らずで、思いつ切りやりました。劇団で鍛えられているのでセリフを覚えるのは、長くても全然苦になりませんでした。そういう意味では声優に向いていたと思います。今では私にはそういう役は当たりませんが、最初のころは、女性の声の吹き替えでした。

しばらくすると少年の声の吹き替えの役募集がかかりました。生本番の収録ですから、トチったらそのまま放送される。そうした酷な仕事を子どもに任せるわけにいきません。大人の男性の役者で適任の人がいればよかったです。ところが、声変わりしているから少年とは似ても似つかない野太い声でしょう？　そこで女性にその役をしてみよう、ということになったんです。私は何の役か知らずにオーディション会場入り。そこで台本を見て、初

めて少年の役だと知ったんです。正直驚きましたが、自分なりに一生懸命やって、幸い合格しました。その作品、評判が良かったんですが、それは私の声のおかげではなく、お茶の間で洋画を日本語の吹き替えで観る、ということが受け入れられたからなんです。時代を物語っていますね（笑）。その洋画の視聴率が良かったことをきっかけに、少年役の声優となれば私に声がかかるようになりました。

——『鉄腕アトム』(注3)でも少年役を演じられました。野沢『鉄腕アトム』は、私の初めてのアニメ出演でした。アニメは洋画の吹き替えとは勝手が違うので最初はかなり戸惑ったことを覚えています。と言いますのも、吹き替えは向こうの役者の声が入っていますので、その声が流れてきたらすぐ声を当てればいい。「このテープでやればびったりはまる」

という感覚を、それまでの吹き替えの経験で持っていたんです。しかし、アニメの場合は、吹き替えと違って声はありませんから、キャラクターの口の動きを見て声を合わせるんです。アニメで声を合わせるタイミングを自分なりに習得することに集中しました。

その後、『ゲゲゲの鬼太郎』で鬼太郎の声をやらせていただき、アニメで初めて主演を務めました。そのころからでしょうか、声優という肩書で呼ばれるようになりました。元々は舞台女優を目指していたから声優と呼ばれるのは大嫌いだっただけです。でも今は声優が

大好き。私自身、女性でありながら、数え切れないほどの「僕」や「俺」、「オイラ」を演じてきました。生身では絶対になれない少年にも、声優を通してなれるんですから、こんな面白いことはありません。そのキャラクターを生かすも殺すも声優の声ひとつ。だから、とてもいいお仕事だと思っています。私は声優。胸を張ってそう言えますし、声優という仕事は私の全てです。

(注3) 鉄腕アトム  
手塚治虫の漫画を原作とするSFアニメで、国産初の三〇分の連続テレビアニメ。一九六三年一月から六六年十二月まで放映された。後にカラーでリメイクされた。

## 病の少年に届けた 「孫悟空」のメッセーじ

——いろいろなキャラクター

を演じてこられました。役作りはどのようにされるのです

か。

野沢 「こういうふうにセリフを言おう」と頭で考えることは



のぞわ・まさこ ●東京都出身。3歳のころから子役として映画などで活躍。高校卒業後、劇団で舞台の芝居に打ち込むようになる。10代後半からは声優の活動もスタート。テレビの洋画の生吹き替えから始まり、『鉄腕アトム』の第1作で少年の声を務め、アニメデビュー。『ゲゲゲの鬼太郎』の第1作で鬼太郎役を担当して、初主演を果たし、第6期では父親の目玉おやじ役を演じた。その他、主な出演作は『ドラゴンボール』シリーズ（孫悟空、孫悟飯、孫悟天）、『ど根性ガエル』（ひろし）、『銀河鉄道999』（星野鉄郎）、『あらいぐまラスカル』（ラスカル）、『怪物くん』（怪物くん）、『ONE PIECE』（Dr.くれは）など多数。『なるほど！ザ・ワールド』などでナレーションも務めた。2013年に第7回声優アワード功労賞、14年には東久ひがしくにのみや瀧宮文化褒賞をそれぞれ受賞。18年には「児童福祉文化賞 特別部門」も受賞している。

ありません。キャラクターの育ちや性格からどんな声を出すのか、自分で想像を膨らませて、自然体でその役に入り込んでいきます。例えば『ドラゴンボール』の悟空の声では、オーディションのときは、声がスッと自然に出た感じでした。後から聞いたところ、原作者の鳥山明先生が二〇〇人ほどの声の録音テープから「あつ、悟空はこの

声だ」と、パッと決められたそうです。—— 続編の『ドラゴンボールZ』では悟空、悟飯、悟天の三役を一人で演じていらっしやいます。野沢 三人それぞれ育ちや性格が違うので、しゃべり方を変えなくてはいけません。悟空はまったくの野生で育っていますが、長男の悟飯は教育ママ

の母親がついていて優等生に育っています。次男の悟天はやんちゃなところがある。そのようなキャラクターづけを自分の中に入れて、しゃべり口調とか、出す声音を変えていきます。そんなふうには、そのキャラクターのイメージを自分の中で膨らませながら声を演じてきました。ところが、原作者の方から「もっとこんな感じの声に変えて」と

注文がついたことは一度もありません。うれしいことに『ドラゴンボール』の鳥山先生は、漫画の原稿を描いているときには「僕の頭の中で悟空や悟飯、悟天が野沢さんの声で勝手にセリフをしゃべり始めたんだよ」とおっしゃるんです。これはもう声優として願ってもない幸せな言葉でした。

—— 人物以外のキャラクターの声も演じていらっしやいます。印象に残っているのは『あらいぐまラスカル』（注4）です。ラスカルは人間の言葉を話さず、鳴き声だけでした。

野沢 ラスカルの役は私からお願いしてオーディションを受けさせてもらったんです。セリフではなく鳴き声しか出さ

(注4) あらいぐまラスカル 米国のスターリング・ノースの実話をもとにした小説が原作。一九七七年一月から十二月まで放映された。スターリング少年と、ラスカルと名付けられたアライグマの子どもの交流を描いている。

ないからこそ、やってみたかったですね。鳴き声だけでいろいろな感情とか気持ち表現してみたかった。当時の私にとっての新たな挑戦でした。

—— 実際、アライグマはどんな声で鳴くのでしょうか。

野沢 私がラスカルにアフレコしたような声で鳴きます。これ本当です。上野動物園に通い続けて、どういう鳴き声か聞いてきましたから。アライグマって、めったに鳴かないんです。通い始めて一〇日ほどたったある日、手に持っていたお芋を地面に落とす瞬間に「クワン」と、たった一言鳴きました。これだ！ と思って、頭の中に入れたんです。

台本にもラスカルのセリフは鳴き声しか書いてありません。例えば、「ラスカル、どこへ行きたい？」というスターリング君の問いかけに、「ミー」という鳴き声を書いてあるだけ。私はそこに「公園に行きた

い！」って、ラスカルの気持ちを書き込んでいました。ラスカルの気持ちを考えて鳴くというより、私がラスカルそのものだから、いつでも自由に鳴ける、そんなラスカルと一体となった感じになっていきました。

—— 『ドラゴンボール』が大好きな男の子に、野沢さんが孫悟空の声でメッセージを贈ったという記事を読みました。その男の子は重病で、余命宣告を受けていたと。

野沢 男の子のお父さんから手紙が届いたんです。ある年の二月の初めでした。「息子は、今月いっぱいには持たないと医者から言われている。それでもいつもベッドで『ドラゴンボール』を観ている。八月公開の映画も観に行くと言っている。最後のプレゼントに野沢さんのサインをあげたい」——。同封されていた色紙にサインをしてから、私は録音を担当

する方に頼み、男の子へのメッセージをテープに録ってもらいました。「オッス！ オラ悟空空！ ○○くん、八月の映画に絶対来いよ、オラ劇場で待つてっからな！」って。男の子は命をつなぎ、映画を観に来ることができたんです。それまでベッドで寝たきりだったのに、この映画は椅子に座って観るんだって、上映中ずっ

と起き上がることもできたのだそうです。そして、映画の翌日、男の子は旅立ちました。お父さんからの知らせに、私はもう、泣けて泣けて……。でも旅立ち前に喜んでもらえて、よかったなど。本当にアニメですごくいいなとも思いました。私じゃなくて、アニメの力がすごいんです。

## 日常生活の観察から「引き出し」を増やす

—— 声優の仕事をする上で喉は生命線だと思えますが、心がけていらっしゃることはありますか。『ドラゴンボール』などは戦闘シーンで叫ぶことも多いと思います。

野沢 そうですね、風邪を引かないようにしていることと、うがいや毎日するくらいでしょうか。私はどんなに叫んでも大

丈夫です。喉に気を使う声優さんは多いですが、私は特別なこととはしていません。声帯が丈夫みたいです。

私の場合、喉の使い方が声帯を長持ちさせているのかもしれない。声のトーンには上も下も「ここまで出せる限界」があります。声優さんの中にはその幅いっぱい使う方がいます





が、そうすると、声に余裕がなくなり芝居ができなくなり。私は声域いっぱい使わず少し加減しています。こうした喉の使い方は、舞台の芝居で会得していたことなんです。声優の世界でも大いに役立っています。

——最近では声優に憧れ、声優養成所や専門学校などに通う若者が増えています。こうした状況をどのように見ておられますか。

野沢 声優界にとっていいことだと思えます。私が声優を始めたころは、声がかかった

劇団から声優を選んでいたわけですが、それでは世界が狭いでしょう。いろいろなところからたくさん出てきたほうがいい。声優の仕事で食べていける人がさらに増えてきたら、もつといいと思います。

——これから声優を目指す人の育成にも取り組んでいくお考えでしょうか。

野沢 私は誰かに教えるよりも自分で演じるほうが好きですね。以前は教えていたのですが、いまだに教え子から「怖かった」と言われます（笑）。長い間劇団にいたせいか、滑舌一つだけでも気になって、「音が違う！」って突っ込んでしまうんですね。

けれども、それくらい厳しく鍛えられなかったら、この世界では生きていきません。声優を目指している人たちは多いですが、デビューできる人は一握りでしょう。一見、華やかな世界に見えるかもしれませんが、

声優になるのは簡単ではありません。声優になれても、いつも自分を磨いていかないと、伸びていけないと思います。

——声優として伸びるために、何をしたらいいでしょうか。

野沢 声の引き出しを増やすことだと思います。演じる役の幅が広がりますから。私は若い声優たちに、「普段から人間観察しなさい」と繰り返し伝えていきます。電車に乗るときはホームにいる人や、車内にいる人たちのしゃべり方や声に耳を傾けてみよう。それを自分の引き出しに入れておく。役をもったときに、その引き出しから声音をつくる。引き出しの種類が多いほど、声優としての可能性は広がっていきます。いろいろな経験を自分のものにして生かす、声優にはそういう姿勢が必要なんです。

——本日は、ありがとうございます。

（聞き手／情報サービス局長 林新一郎）



地域の底力

新潟県十日町市

# 過疎化する地域に アートの方が 活性化をもたらす 新潟県十日町市

大雪とともに紡いできた歴史と、  
伝統的な暮らしのすばらしさを再発見。  
新潟県十日町市の国際的な芸術祭は、  
地域の人の心に温もりと誇りをもたらした。

取材・文山内史子  
写真野瀬勝一

2000年から3年ごとに開催されてきた「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」に参加したアーティストにより制作されたモダンアートが、新潟県十日町市内全域に点在する。写真はその中の一つ、「たくさんの失われた窓のために」(内海昭子)。



左／松之山地区の「松陰寺」に残る全国で3体しかないといわれる貴重なマリア観音で、手に子どもを抱いている。右／市街地を見渡す高台に立つ「諏訪神社」。境内には機織りの神を祀る「御機神社」がある。

昔はよかったという意識を大きく変えた芸術祭の開催

新潟県南部、長野県との県境に位置し、人口約五万人を数える十日町市は一九五四年の市制施行以来、幾度か周辺の町村と合併し、東京二三区に匹敵するほどの広さに。その中心の信濃川が流れる一帯の積雪量は、平年で二メートル



「大地の芸術祭のアーティストの視点を通して、郷土料理を含めた伝統文化や農業に動んできた歴史、自然に恵まれた美しい景観など、受け継がれてきた十日町の魅力を再認識させられました」と話す市長の関口芳史氏。

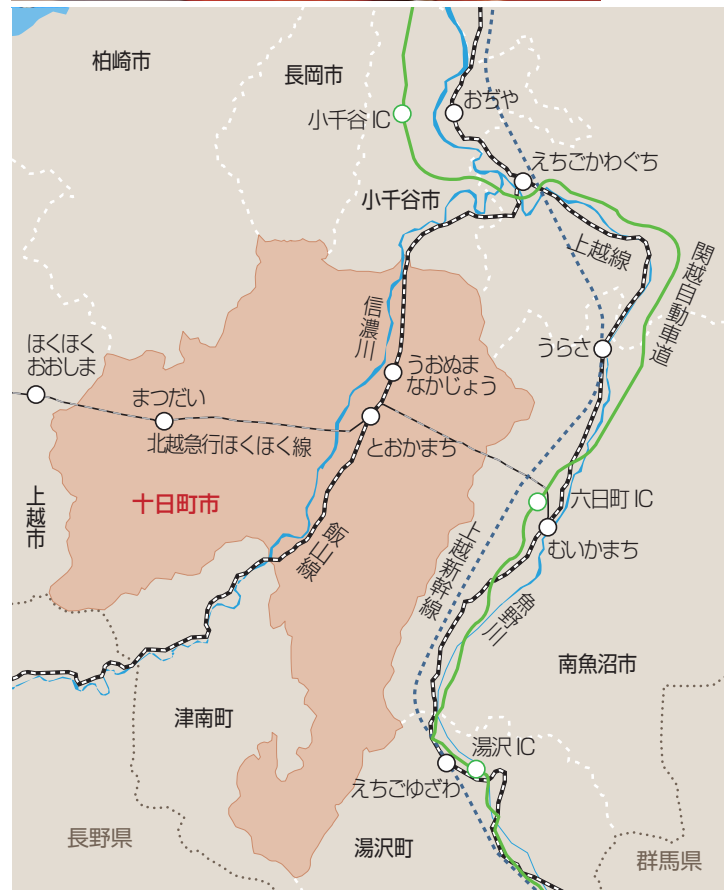
ルほどにもなるが、多い年には四メートルをも超える日本有数の豪雪地帯だ。かつてその産業の要は着物だったが、生活様式の変化とともにそ

の勢いを失っていったと振り返るのは、十日町市長の関口芳史氏だ。東京ほか国内外での勤務を経て、一九九五年に十日町市に戻り、同市助役を経て、二〇〇九年以降、

現職を務める。「故郷に戻ってきたときはバブルも崩壊しており、織物産業の盛んなった昔はよかったという話を結構聞きました」

地域の過疎化も進んでいた十日町市だが、実はここ二〇年で変化を遂げつつある。大きなことになったのは二〇〇〇年以降、三件事情に十日町市と隣の津南町を会場に開催される「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ」。四〇カ国を超える国や地域から招かれたアーティストが芸術祭を重なることに残した作品約二〇〇点

例年5月3日に行われる「十日町きものまつり」では、地元の人も華やかな着物に身を包む。(写真提供：十日町市)



柱状の岩が彩る「清津峡」は、日本三大峡谷に数えられる観光名所のひとつ。峡谷から続くトンネルの景色は、2018年の芸術祭作品「Tunnel of Light」(マ・ヤンソン/MAD アーキテクト)として新たな価値が見いだされた。



が全域に点在し、一年を通して楽しめる上、年四回季節ごとに企画展やイベントも行われている。「今や十日町は大地の芸術祭の里」というブランドができてつつあります。多くの市民が関わりをもち、『うちには芸術祭をやってるけんね』という意識、誇りが、老若男女問わず市民の中に根付いています。芸術祭があるまちだから住

みたい、働きたいという移住者も多い」

そう関口氏が顔をほころばせた大地の芸術祭は、いったい十日町市にどのような影響をもたらしたのだろうか。

### 高齢者に元気をもたらした若い世代との交流

大地の芸術祭の総合ディレクターを務めるのは、新潟県出身のアーティスト北川フラム氏(注1)。NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長の藪田尚久氏は、その北川氏とともに時間をかけて地ならしをしてきたが、決して順風満帆な船出ではなかったと話す。

「過疎化、高齢化が進んでいく中、市外との交流人口を増やしていく方策を考えないと先々地域は衰退する。その強い危機感から、芸術祭を企画しました。初回開催前の四年間、小さな集落を含めて延べ約二〇〇〇回にものぼる住民向け説明会を行いました。過疎対策に芸術が役立つということを訴え続けましたが、当時は誰も芸術

のまち十日町市を想像できていなかったですね」

今では日本各地で芸術祭が開催されているが、十日町市はその先駆的存在。観光や産業振興ではなく、地域振興が目的であることがほかと大きく異なるという。

「地域の歴史に最大限の敬意を払いつつ、外の人と交わる仕掛けを、との思いがありますから、参加してくれるアーティストの方々には、自身の作品をどう見せるかだけでなく、地域のためにどうすればいいかを考えてほしい、とお願いしてきました」

圏域に広く点在する大小の集落を巻き込むため、作品は意図的に分散して展示。開催当初は作品を置くことに反対の声も少なくなく、設置場所は市有地や市の施設

上/2012年の芸術祭の際に現在の形にリニューアルした「越後妻有里山現代美術館【キナーレ】」は、中庭全体も作品。「Palimpsest:空の池」(レアンドロ・エルリッヒ)。下/「Rolling Cylinder, 2012」(カールステン・ヘラー)ほか、数多くのモダンアートに触れられる。



(注1) 北川フラム氏と原田審議委員の対談については、『「にちぎん」四五号をご覧ください。』



が中心だった。しかし、芸術祭の回を重ねるにつれ賛同者が増え、自分の集落にも作品を、といった声があがっていった。その理由を藪田氏はこう語る。

「芸術祭を観に来てくださる方が増え続け、二〇一八年には芸術祭開催期間中(五一日間)で五十数万人を数えるまでになりました。海外を含め、こんなにも多くの人があるんだと思います。来場者の増加という現実の効果は大きかったですね。さらに見逃せないことは、芸術祭を通じて、地元の方と、外から来る若い世代

「将来的には産業を興す手伝いなど、より踏み込んだ形で芸術祭を開催したい」と話すNPO法人越後妻有里山協働機構事務局長の藪田尚久氏（右）。地元サポーターの樋口道子氏（左）は、「最初はアートのことはよく分からないまま芸術祭に関わっていましたが、ご案内するうちに作品への感想が見た方によって異なることに気づき、面白くなってきました」とガイド中に得た実りを語る。



「花咲ける妻有」（草間彌生）。後ろには北越急行ほくほく線の線路があり、背景を電車が彩ることもある。

との交流が生まれたことです。作品の維持管理などを担うサポーター「こへび隊」に、学生をはじめ国内外から多数の応募がありました。アーティストの制作やこへび隊の活動を地元の人たちが手伝

うという、いい循環が生まれてきました」

芸術作品を作るための大工道具の扱いを含め、若い人たちの様子を見かねて協力するようになったと笑いながら藪田氏の話を継いだのは、地元サポーターとして芸術祭に関わる樋口道子さんだ。

「若い人たちとの交流によって、地域のお年寄りが見違えるように元気になりました。家で毎日食卓にのぼる郷土料理を、芸術祭の参加者の皆さんはおいしいおいしいと喜んで食べてくださったので、もてなしにやりがいがありました。こんな雪国は住むところじゃない、我慢できるものは何もないというのが年配の方の口癖でしたが、芸術祭に関わることで地域の魅力に気づき、自信と誇りを持つようになってきました」

樋口氏は作品を案内するガイド役を担うこともあるが、時には身振り手振りを交えて国際交流を楽しんでいるそうだ。

「織物産業が盛んだった頃は、全国から買い付けの人が集まっています。旅人を歓迎する心は、芸術祭の前から十日町に根付いて

いたのだと思います」

地域が協力して田畑を耕す農業と、にぎわっていた織物産業。受け継がれた心の遺産が、再び花開いていた。芸術祭の思わぬ効果を樋口氏はこう話す。

「芸術祭がなければおそらく縁がなかったであろう地域の方と、新たな交流ができるようになった

のがうれしいですね。今はそうした方々と一緒に芸術祭を盛り上げています」

古民家を再生し、芸術祭の参加者や観光客を郷土料理でもてなす「うぶすなの家」のスタッフとしても働く樋口氏。芸術祭を機に、市民同士で新たな交流が生まれている状況が興味深い。

下／「うぶすなの家」（入澤美時、安藤邦廣）は、茅葺きの民家を再生した作品。中には地元の食材や器を使った食事を提供するレストランがあり、樋口氏も携わる。



芸術祭や作品の場所を示す標識兼作品「妻有広域のサイン」（ジヨゼ・デ・ギマライン）は、市内のあちこちで見られる。



上／「地震計」（オノレ・ドウオー）と、雪国の農耕文化を発信する「まつだい雪国農耕文化村センター『農舞台』（MVRDV）。下／文字通り棚田を舞台にした「棚田」（イリヤ&エミリア・カバコフ）。



「火焰型土器は炎を模したとの推定から名付けられましたが、信濃川の流れを表現したのではないかとの見方もあり、想像力がかきたてられます」という興味深い話を語る「十日町市博物館」館長佐野誠市氏。

## 縄文文化、雪国の暮らし、織物産業

### 博物館は深くまちにふれあう場所

芸術祭誕生のはるか昔にこの地で生まれたアート、新潟県で唯一国宝に指定された火焰型土器<sup>かえん</sup>もまた、十日町市を語る上で欠かせない存在。地域の歴史にふれられる二〇二〇年六月一日開館の「十日町市博物館」でも、展示物の主役を担う。

火焰型土器を中心とした「縄文時代と火焰型土器のクニ」のほか、「織物の歴史」「雪と信濃川」の三つのテーマで展示が展開されている。



上／十日町市博物館の国宝「火焰型土器」。国宝は計57点あり、そのうち26点を展示している。下／縄文時代と中世の遺跡が発見された場所は、「笹山遺跡広場」として整備。復元した竪穴住居が見られる。

るが、開館直後の六月十九日に行きたい知らせが届いた。十日町市が申請していたストーリー「究極の雪国とおかまちー真説！豪雪地ものがたりー」が、「豪雪に育まれた『着もの・食べもの・建もの・まつり・美』のものがたりが揃っている」として日本遺産（注②）に認定された、と話すのは同博物館館長の佐野誠市氏だ。

「雪という環境の中、衣食住、さらには祭りと美という形で、我々の祖先がずっと縄文からつないできた系譜が日本遺産に認定された。時宜を得たニュースだった上、博物館の展示とも深く関わりがあるのがうれしかったですね」

屋根まで届くほどの積雪の中で生活する姿を映し出す展示などが



ら、豪雪によりまちの人々がどれほど苦労を重ねてきたかを実感できるほか、織物をはじめとする伝統的な暮らしが、いかに雪に根付いているかも理解できる。そうした豊富な展示の中でも、ずらりと並ぶ火焰型土器の美しさ。十日町市博物館の展示室「雪と信濃川」には、囲炉裏のある古民家を移築。かつての雪国の暮らしをよりリアルに体感できるよう、家中も自由に入ることができる。

（注②）日本遺産／地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。

と存在感は異彩を放つ。わかりやすい工夫が施され、興味をかき立てられる展示には、佐野氏の強い思いが秘められていた。

「以前、研修のために米国の小さな田舎町を訪れた際、まずは博物館に案内されたんです。そこで我々の祖先はこういう文化なんだというのを見せられたのが非常に印象に残り、博物館の在り方を考える上で非常に印象的でした。日本では歴史的な背景などを知らないまま観光を終わってしまうことが多い。十日町市に旅した方は、最初にこの博物館を訪れていただくとうれいすね」

## 地元では当たり前前かがい地域を発信する力になり得る

長野県との県境、市の西部に位置し、八百有余年の歴史がある松之山温泉も、十日町市への旅を誘う役割を果たしている。草津温泉、有馬温泉と並ぶ日本三大薬湯であ



左/明治後期の「大日本帝国著名温泉一覧表」では小結の座にあったほど、松之山温泉は昔から湯治場として認知されていたと歴史を語る「ひなの宿ちとせ」代表取締役社長の柳一成氏。上/美肌効果もあるという温泉の効能を、家庭でも体感できるよう「松之山温泉合同会社まんま」が企画した「松之山温泉ミスト」は当初の予想を超える人気商品に。

りながら、ほかの二つに比べて圧倒的に知名度が低いと調査で判明したことが、自分たちが動き出す契機になった、と話すのはひなの宿ちとせ代表取締役社長の柳一成氏だ。

「知名度を上げていくため、一軒一軒ではなく温泉街全体で協力して」と、二〇〇八年に旅館経営者をはじめ地元の有志が出資して『松之山温泉合同会社まんま』



越後松代棚田群「星峠の棚田」(上)、「蒲生の棚田」(左、写真提供、(一)社十日町市観光協会) ほか、十日町市内に棚田が広がり、ビューポイントとして、国内にとどまらず海外からも多くの観光客が訪れる。

を立ち上げました」

柳氏が代表を務めるまんまでは、松之山温泉の名物料理をつくりたいと、東京の著名な料理人にアドバイスを依頼。その中で、独自性を出そうと作っていた料理が、実は東京ではさほど珍しくないことが分かり、落胆した。さらには料理人からの、地元の何がおいしいのかとの質問に対し、言葉に詰まったそうだ。

「米がおいしいなんて当たり前だと思っていました。自分たちが日頃食べ慣れているものに自信がなかったんですね。地味な地元の

料理を出してもお客様に喜ばれないのではないかと。でも、私たちにとってはありきたりのものが、外の人から見ると当たり前ではないし、むしろそういうものこそお客様は味わいたいのだと気づかされました。議論を積み重ねていく中で、地元の素材を生かし、磨くことこそ松之山の進むべき道なのだということが見えてきました」

そんな経緯から生まれた名物料理が、文字通り棚田の米を使った「棚田鍋」。地元産の妻有ポークを温泉で低温調理する「湯治豚」もまた人気が高い。朝ご飯の充実を

はかる「おいしい朝ごはんプロジエクト」も松之山の名を高めた。

「朝食はこの旅館でも出されませんが、考えてみれば旅館を離れる最後の食事。加えて朝食と言えば、十日町市が誇るお米が欠かせない。そこに山菜をはじめ松之山の食材を出すことで、まちの良さが際立つのではと思いました」

果たして、柳氏の発案は新潟県全域に広がるほどまでに注目された。さらには、地元の案内役と連携して旅行商品をつくり、雪景色や美しいブナの森「美人林」などを案内する旅行企画も始めた。都会の旅行代理店ではなく、地元の人が発案し、地域の魅力を伝えることに意味があると柳氏はいう。

「旅館は、地域のショーケース



新緑、紅葉、雪景色と、季節でブナの木々が表情を変える松之山地区の「美人林」。冬場はスノーシューでの散策も楽しめる。

的な存在だと考えるようになりました。滞在中に地域の魅力をかいま見られる、重要な場所なんだと思っっています。とはいえ、この松之山の一番の誇りはやはりお湯です。ですからによりもうれしいのは、お客様が『やっぱり松之山のお湯はいいね』とおっしゃって宿を後にしてくださいさることですね」

## 十日町市の豊かな暮らしに 心惹かれて移住を果たす

十日町市では、新たな特産品も生まれている。地元で醸される「妻

有ビール」だ。妻有ビール株式会  
社代表取締役の高木千歩氏はも  
と東京在住だったが、祖父母や  
親戚が住む十日町には幼い頃から  
頻繁に訪れていた。二〇一一年に  
移住したきっかけは東日本大震  
災、そして翌日に発生した長野県  
北部地震だ。

「東日本大震災の直後、買い占  
めが続く東京では、お金があつて  
もものが買えない状況。自分はそ  
ういうところで暮らしたいのかと  
自問しました。十日町なら、田畑  
がある。食べるものを自分で作る  
生活が当たり前。ここには生きて

いくための力  
があると思っ  
たんです。二  
〇〇七年の新  
潟中越沖地震  
の際、この地  
域の方は湧き  
水と薪ストー  
ブで調理をし  
たという話も  
胸をよぎりま  
した」

### 会社を辞

め、十日町市の地域おこし協力隊  
に参加。その後、大好きな地ビー  
ルが飲めるビアレストランの経営  
を手がける中、お客様からの「十  
日町の地ビールはないのか」とい  
う一言がきっかけになり、ならば  
自分でつくろうと一念発起した。  
ビアレストランや醸造所の設  
立・運営にあたり、高木氏が助け  
られたのは、地元の密接な人のつ  
ながりだという。

「困ったときには誰かに相談す  
れば手を差し伸べてくれるし、人  
を紹介してくれる。都会だと縁遠  
く感じられる市役所も、何かを手  
がける際に関係が近いのもこの地

### 域の大きな魅力ですね」

市の補助金に加え、インター  
ネットを通じた資金調達など周囲  
の協力を得て、二〇一七年一月に  
会社設立。翌年の一月にビールの  
仕込みを始めた。一カ月の熟成を  
経て最初のお披露目となった「十  
日町雪まつり」には、大勢の客が  
訪れたそうだ。

「多くの人に支援していただい  
たので、完成までは緊張感があり  
ましたが、雪まつりでの出店で責  
任を一つ果たせたという思いで、  
ほっとしました」

そのおいしさは、その後のイベ  
ントでの人気の高さや、松之山温



「麻織物」の神として信仰を集め国の重要文化財に指定されている松代地区の「松平神社本殿」。戦国武将たちが祈りを捧げ、上杉謙信寄進の小刀、日の丸の軍配が伝えられている。  
(写真提供・十日町市)



山間部では、幻想的な朝霧の景色が見られる機会が少なくない。



「妻有ビール」代表取締役の高木千歩氏が手にしているのは妻有ビールのロゴが入った、再利用可能1リットル瓶。地元産のそばを使った「十日町そばエール」など、地産を意識したビールの開発に力を注ぐ。



1950年から続く「十日町雪まつり」は毎年2月中旬の開催。市民が主体の雪のイベントとしては国内初であることから、十日町市は「現代雪まつり発祥の地」とされる。写真は祭り開催期間中にメインエリアの越後妻有交流館キナーレで行われた雪上茶席の会場と十日町きもの女王2019。

(写真提供：十日町市)



「究極の雪国とおかまち ー真説！豪雪地ものがたりー」の日本遺産認定を祝うセレモニー。(写真提供：十日町市)

泉ほか地元宿泊施設、飲食店で  
の需要の高まりが物語る。現在、  
一般の小売りは醸造所での一リッ  
トルの大瓶のみの直販に限られて  
いるが、通信販売をとの全国から  
の声に応え、小瓶での販売を計画  
しているとか。イベント以外でも、  
観光客が気軽に喉を潤せる日は遠  
くないはずだ。

### まちを離れた人たちが コロナ禍により 故郷を想う時代

まちと人が新たな道を進む中、  
二〇二〇年春、コロナ禍に世界が  
襲われ、十日町市もまた自粛の日々

を強いられた。だが、今回の取材で  
お会いした方々は皆、遠く離れた  
人たちとのオンラインによるつな  
がりや応援、通信販売の依頼など  
を元気の源としながら、前向きに  
活動していて胸が熱くなった。  
さらには、県内外の大学や専門  
学校に通う十日町市出身の学生た  
ちに、十日町の特産品を掲載した  
カタログギフトを贈ったという、  
市長の関口氏の話は印象深い。

「地域の魅力がいっぱい詰まっ  
た『本で旅する十日町』というカ  
タログギフトを送ったところ、思  
いがけず多くの学生から感謝の  
メッセージが届いたんです。高校  
卒業後、一八歳になった若者が十

日町から出ていくのを何とかした  
いと思っていました。その若者た  
ちとようやくつながれたというう  
れしさがありません」

故郷に帰れない中での市からの  
プレゼントは、十日町を離れて暮  
らす若者の心に優しく響き、大き  
な励みになったことだろう。在  
宅勤務が広がりつつある今、未来  
が変わるのではないかと関口氏  
は話す。

「業種にもよるかもしれませんが  
が、どこでも仕事ができるとなれ  
ば、都市圏の企業に就職したとし  
ても、ふるさとに比重を置いた人  
生設計ができるのではないでしょ  
うか。コロナ禍は人々に大きな困  
難をもたらしていますが、東京に  
人とモノとカネを集中させ、大き  
な経済効果を得るといふこれまで  
の流れを、考え直す大きな転機に  
なると思っています。豊かな暮ら  
しがある十日町で待っています、  
と仰りたいですね」

実際、かつて妻有ビールの高木  
氏が東京を離れたように、今回の  
コロナ禍で地方の良さにあらため  
て思いをはせた人は少なくないは  
ず。『雪国での暮らしは大変』と長

近年は暖冬の影響によりまちなかの積雪量は  
減ったとはいえ、大雪の年は圧巻の雪景色が  
見られる。  
(写真提供：十日町市)



年言われてきた十日町だが、日本  
遺産の認定に象徴されるように、  
当たり前でお荷物と思われていた  
存在が、地域に豊かな恵みを生み  
出す源でもあったと、前向きにと  
らえる動きが出てくることも期待  
できそうだ。

芸術祭の誕生から、二〇年。ま  
ちに活力が生まれ、受け継がれて  
きた歴史や伝統文化が見直される  
中、芸術作品のある景色を日常と  
して育った子どもたちが、信濃川  
のサケのように自然と故郷に戻っ  
てくる日はそう遠くないのもし  
れない。

クラシックの型にはまらない演奏で観客を魅了し、異なるジャンルのアーティストとの共演で新しい舞台も創出するバイオリニスト・川井郁子さん。独自の感覚で彩られる音楽はどのように生まれるのか。クラシック・ギターに造詣の深い鈴木人司審議委員と、その音色の原点や楽器の秘密に関することまで語り合った。



日本銀行政策委員会 審議委員

# 鈴木人司

SUZUKI Hitoshi

1954年東京都生まれ。77年慶應義塾大学経済学部卒業後、(株)三菱銀行に入行。2002年(株)東京三菱銀行市場企画室長、06年(株)三菱東京UFJ銀行執行役員市場企画部長を経て、常務取締役、専務取締役、副頭取、顧問などを歴任。17年7月より日本銀行政策委員会審議委員。

## 異なるものとの出会いが生む 自分だけの新しい世界の音色



バイオリニスト・作曲家

# 川井郁子

KAWAI Ikuko

香川県高松市出身。東京藝術大学卒業・同大学院修了。現在大阪芸術大学(演奏学科)教授。国内外の主要オーケストラをはじめ、世界的な指揮者チョン・ミョンフンやテノール歌手ホセ・カレーラスなどと共演を果たす。また、アルバム『ザ・レッド・ヴァイオリン』(2000年)や『LUNA』(2017年)などは、クラシック界では異例のセールスを記録している。演奏以外でも、映画『北のカナリアたち』(2012年)の音楽を担当し、第36回日本アカデミー賞・最優秀音楽賞を受賞したほか、「川井郁子 Mother Hand 基金」を設立し、タイなどの難民キャンプでのボランティア活動も行うなど活躍の場を広げている。

ジャンルを超えた音楽家が  
進むべき道を示してくれた

**鈴木** 今回対談をお願いしたのは私が川井さんのファンだからですが、今でも心に浮かぶのが、もう一〇年以上も昔、かつしかシンフォニーヒルズでの公演で聴いた音色です。当時、私は三菱東京UFJ銀行(現・三菱UFJ銀行)市場部門長としてリーマン危機の対応に当たっていました。日々、有価証券の価値がどんどん下がっていくような状況で、精神的に追い込まれていたんです。でも、そのときに聴いた川井さんのバイオリンに救われました。優しくて美しく、とても癒やされる音色だったからです。

**川井** うれしいです。ありがとうございます。

**鈴木** ご出身は香川の高松市でいらっしゃるようですが、バイオリンとのかかわりは、どのように始まったのでしょうか。

**川井** 母がクラシック好きで、私は四歳からピアノを始めました。六歳のとき、リビングで母と洗濯

物をたたみながらラジオを聴いているとブルッフ(注1)の協奏曲が流れてきたんです。そのバイオリンの音色にすごく感動しました。「この楽器がやりたい」と母に頼むと、「お父さんがいいって言ったらね」と。父は「子どもの気まぐれだろう」と最初は反対でしたが、何度もお願ひして。半年以上粘ったでしょうか(笑)。クリスマス夜の夜、父がバイオリンを手に帰ってきたんです。

その日から、弾き続けています。最初の先生は趣味で弾いていらっしやる方でしたが、小学四年生のころ、東京藝術大学(以下、芸大)を出た方が香川に戻ってこられたんです。私は子どもながら「この道を進もう」と決心しその方に師事することにしました。毎週日曜日、レッスンのために別の市まで片道三時間かけて通いました。高校時代には東京にもレッスンで通っていました。本当にレッスン漬けでしたね。

**鈴木** その後、芸大を卒業されプロのバイオリニストになられましたが、これまでバイオリンを嫌

になったことはありませんか。

**川井** バイオリンが嫌いになったり、レッスンをさぼりたいと思っただけは一度もないですね。ただ、「バイオリニストに向いてないのではないか」と思い悩んだ時期はありました。高校時代、練習で一〇〇%仕上げていたのに、本番の舞台で真っ白になって大失敗してしまい、自分を信用できなくなっただけです。聴いている人にもはっきりわかる失敗はその一回だけですが、そこからしばらくは舞台恐怖症になって……。

**鈴木** 川井さんほどの方でもそうしたご経験があるのですか……。そうした状況をどうやって克服されたのですか。

**川井** ひたすら練習です。クラシック音楽の演奏では作曲家の意図を忠実に解釈して表現することが求められます。「楽譜を全部絵として記憶に入れなさい」という先生もいるほどです。舞台恐怖症を克服するために、寝ていても弾けるぐらい必死で練習しました。そんな経験から芸大に入学したころは「ソリストにだけは絶対な

らない!」と思っていたんですが、ソリストに。いろんな人や曲との出合いがあつて、今は人前で自分の表現したい音楽を弾くのが、一番好きになりました。

**鈴木** やはり練習によってトラウマを克服されたんですね。ところで、川井さんのコンサートではアストル・ピアソラ(注2)の「リベルタンゴ」の演奏が定番になっていますね。私も「ブエノスアイレスの四季」をギターで弾いたりしますが、ピアソラのどのようなところが好きなのでしょう。

**川井** ピアソラは私に、音楽家として進むべき道を示してくれたと思っています。

ピアソラに出会う前、私はすでにデビューしていて、バイオリンでポップスを弾いたり、映画やテレビに出演させていただいたりしていました。クラシックの枠を超ええるような演奏の場を与えていただくたびに、喜んで引き受けていたのです。しかしそうした依頼をこなすうちにバイオリンへのモチベーションを保つことが難しくなってきました。これなら私で

なくても代わりの人が演奏できるのではないかと、という思いが強くなってきたんです。

ピアソラを聴いたとき、一瞬で自分の迷いが吹き飛びました。これまで聴いたどの音楽とも違う。もともとタンゴのアーティストでありながら、さまざまな音楽の要素を吸収し、「ピアソラ」として新しいジャンルの音楽を生み出している。私もそういう姿勢で、自分に一番合う音楽を創りたいという目標ができたんです。

「新しいアルバムを出さないか」というお話をいただいたのは、ピアソラと出会った直後でした。CDの売り上げをあげるために、シヨパンのピアノ曲や有名歌手の楽曲をカバーしようという案でしたが、ですが私は「自分の表現したい音楽がある。私が思うままにやらせてほしい」と、初めて言った

(注1) マックス・ブルッフ(二八三八―一九二〇年) ドイツの作曲家。バイオリン協奏曲第一番短調が有名。  
(注2) アストル・ピアソラ(二九二一―一九九三年) アルゼンチンのバンドネオン奏者、作曲家。踊るための音楽であったタンゴを、聴くための音楽に変革し、新ジャンルを確立。代表作に「リベルタンゴ」、「ブエノスアイレスの四季」など。

んです。創り上げた『ザ・レッド・ヴァイオリン』で私は本当の意味でデビューできたように思いました。

発売後の最初のコンサートで、妹が「お姉ちゃんが一番演奏を楽しんできてね」と言って舞台に送り出してくれました。それから私は、舞台上でバイオリンを弾くときは、迷いなく自分の内面を出せるようになったんです。

## 奏者が肌触りを感じる 一八世紀の名器の音色

**鈴木** 私は趣味でクラシック・ギターを弾くのですが、楽器によって音色が違います。私が気に入っているアントニオ・デ・トーレス（注3）のギターは太くて甘くて温かい音がしますが、重厚感のある音や瑞々<sup>みずみず</sup>しい音の出るギターもあります。川井さんは現在、一七一五年製のストラディバリウス（注4）を使っておられますね。ストラディバリウスはほかのバイオリンと比べてどのような違いがあるのでしょうか。

**川井** ストラディバリウスは名器

ではありますが、奏者にとっては一癖も二癖もある難しい楽器です。最初は素直に伝えてくれず、音を出すのに苦労します。こうした印象はどのバイオリンニストも言いますね。でも、半年ほど弾いて慣れてくると、奏者に伝えてくれるようになる。バイオリンは体に密着させて弾く楽器なので、体も振動させながら音が出ていきますが、奏者自身に伝わるその音色が本当に滑らかに、肌触りよく感じられるんです。

もう一つ、ストラディバリウスの不思議なところは、耳元で鳴る音と、遠くに届く音が違うんです。耳元ではほかの楽器に音量が負けているように聞こえても、遠くではバイオリンの音がしっかりしています。「遠鳴り」がする楽器なのです。

**鈴木** 優れた楽器は遠達性がありますし、コンサート会場でも一番後ろの席が最も良い音を聴けると言われます。ストラディバリウスの製作の秘密については、材質や乾燥具合など多様な研究がなされていますが、まだ解明されていま

せん。ストラディバリウスの製作者であるストラディバリは弟子にも作り方のすべてを伝授することはなかったそうですね。現代の技術をもってしても楽器製作の謎が解けません。そういった製作過程を経て出来上がった楽器、あるいはその製作者に、私は敬意と感動を覚えずにはられません。

音ということでは、川井さんが以前、東京文化会館小ホールでの公演で「今日は生音でお届けできますから、皆さんラッキーです」というお話をされたことが印象に残っています。スピーカーを通すと人間に聴こえる音域でしか再生されない、しかし実は聴こえない音域にこそ脳への刺激効果がある、という話を聞いたことがあります。生音とスピーカーを通すのでは、そういう違いもあるのでしょうか。

**川井** それは圧倒的に違うと思います。レコーディングするときもマイクを通した音になるわけですが、マイクの性能によっても音が変わりますし、生の音を再現するのは、どうやっても無理ですね。

とくに、ストラディバリウスは倍音（注5）が多いので、マイク録音には向かないと思います。音色が硬くなってしまうんです。広いホールで距離をとって録音ができれば、ストラディバリウスの良さが発揮できますが、スタジオでは難しいです。

**鈴木** 倍音が多彩に出てくることで楽器の音色は複雑さを伴って、それが人に心地良さを感じさせるのでしょうか。

**川井** そうですね。生の音には波動みたいなものも含まれますから、弾いている人の魂とか気持ちも生じやないと伝わってこないと思います。コロナ禍の影響で生演奏の機会がなくなり、私も含めて多くの演奏家がインターネットで配信していますが、やればやるほど、やはり生で弾きたくなりますね。コンサートでは、弾く人が奏でた音楽を聴く人が一方的に受け取るだけだと思われがちですが、意外と双方向なんです。お互いの波動のやりとりによって、演奏家は聴いておられるお客様から刺激を受けながら、次の音、また次



の音と奏でていくところがあります。舞台やコンサートは、演奏家だけでなくお客様と一緒に作っていくものなんです。

### 音楽との一体感を求めてジャンルを自在に往来する

**鈴木** 川井さんは、国内外の主要オーケストラはもちろんです、世界的な歌手やバレエダンサー、フィギュアスケーター、あるいは雅楽の方とも共演されています。つねに新しいコンサートスタイルを追求されていることに驚かされます。

**川井** 異なるジャンルの方々と共

演すると、それまで感じられなかった感覚で弾けるんです。ジャンルの「越境」から生まれる化学反応とも言えます。舞台で新しいものに出会うことができます。そのとき、私は一番ワクワクします。

来年は、集大成として細川ガラシャ(注⑥)をモチーフに西洋の楽器と東洋の音色を組み合わせた形で音楽舞台を創りたいと考えているんです。

ガラシャは戦国武将の娘に生まれたキリシタンですから、東洋と西洋の両方の音楽で舞台を彩ることができる。過酷な運命にもかかわらず自分の意思で生き抜いたガラシャに惹かれるんです。

**鈴木** 作曲家としても精力的に活動されていますが、作曲は川井さんにとってどのような時間なのでしょう。

**川井** ガラシャの舞台に向けて、毎日のようにピアノに向かっていきます。私にとっては作曲も、自分の内面を解き放てる時間です。ピアノで和音をたたいてみると心が落ち着き、イメージも膨らんでメ

ロディーが降りてくる。それを曲として組み立てていきます。曲がすとんと降りてくる感動とか、産み落ちてくるときに感じる感動、気持ちよさは作曲の醍醐味(だいごみ)です。そういう瞬間があると、これは神様からのご褒美だと思うようにしています。

**鈴木** 川井さんは、演奏活動や作曲活動にとどまらず、タイやウガンダなどの難民キャンプを訪問してボランティア活動もされているそうですね。

**川井** 私自身、子どもを授かったことで、世界の子どもたちに目を向けるようになりました。主宰する「Mother Hand 基金」では、そのときどきで縁のあった団体や活動に協力させていただいています。非常に過酷な環境の中で生きていく子どもたちですが、私がバイオリンを弾くと本当に音楽を体で楽しんでくれます。彼らから音楽の根源的な魅力や力といった、普段忘れがちな多くの大事なことを思い出させてもらっているんです。作曲やボランティアといった、演奏とは離れたものとの

出会いを通して音楽と一体となるような経験を大事にしていきたいですね。

そして、バイオリンリストとして、バレエやフィギュアスケートなど異なるジャンルの方々との共演などを通して自分を高め、聴いてくださるお客様に感動を与えられる音楽を創っていければと思います。

**鈴木** 本日は、貴重なお話をありがとうございました。

(注③) アントニオ・デ・トリス(一八一七～一八九二年)

スペインの楽器製作者。ギターのアンドレイバリと言われ、現在製作されているクラシック・ギターの原型となるモダンギターを製作した。

(注④) ストラディバリウス  
イタリアの楽器製作者、アントニオ・ストラディバリ(一六四四～一七三七)によって作られた弦楽器のこと。現存するストラディバリウスは全世界で五〇〇～六〇〇丁とされ、バイオリンが圧倒的に多い。

(注⑤) 倍音  
原音の振動数の二倍、四倍など、整数倍の振動数を持つ音のこと。倍音成分がバイオリンの複雑な音色を生み出す。ストラディバリウスの場合、耳には察知できない倍音がつねに多く出ているという。

(注⑥) 細川ガラシャ(一五六三～一六〇〇年)  
明智光秀の三女。豊前国小倉藩初代藩主細川忠興の妻。父光秀が本能寺の変で織田信長を討つも、直後の山崎の戦いで夫忠興が味方する豊臣軍に敗れた。このため、「謀反人の娘」として幽閉・監視される等過酷な日々を送る。そうした中でキリスト教の教えを知り、キリシタンとなる。

# 世界の金融システム安定への貢献

銀行監督の国際的なルール作りには貢献する金融機構局国際課は、日本のなかで国際交渉に携わる機会が非常に多い部署の一つです。その業務は多岐にわたり、国内外の関係者との地道な調整が続きます。そうしたなかで、日本の国益はもとより、世界の金融システムの安定も考えつつ、先々を見据える視点で仕事に取り組んでいます。

バーゼル銀行監督委員会やその作業部会などの国際会議を支える日常やこれまでに積み上げてきた成果、新型コロナウイルス感染症の状況を受けての国際的な対応、そして足元取り組んでいる新たな課題など幅広くご紹介いたします。

## 情報収集と調整を重ね 国際交渉の最前線に立つ

国際会議への参加を通じ、グローバルな銀行監督のルールの策定と実施に貢献していくのが金融機構局国際課の役割。世界の金融システム安定のため、私たちは国際交渉の最前線に立っています、と話すのは、課長の小林俊さん。バーゼル銀行監督委員会（注1）や金融安定理事会（FSB）（注2）などの国際会議への参加機会が多い国際

課の陣容について小林さんは説明します。

「二〇名近い課員の多くは海外留学や国際機関、海外中央銀行、日本銀行海外事務所などでの経験があり、海外の大学を卒業して採用された若手が配属されるケースも増えています。海外出張が非常に多いのも特徴ですね」

世界的な金融規制の合意である一九八八年のバーゼルIは策定後も改訂が行われ、二〇〇七年以降の世界金融危機を経て、より強化した規制が必要との声が強まら



バーゼル銀行監督委員会の事務局がある国際決済銀行（スイス・バーゼル）

た。その結果、二〇一〇年にはバーゼルIIIという新たな金融規制の枠組みに参加各国が合意しました（その後も調整が続く二〇一七年に概ね最終合意）。

「各国の利害が異なるため常に会議は白熱します。過去、国際的な金融規制に関する議論は欧米主導との印象もありましたが、バーゼルIIIでは交渉の経験を積んだ職員が増えたこともあり、日本の主張がかなり反映されたという実感があります」

国際課の職員は、バーゼル銀行監督委員

（注1）バーゼル銀行監督委員会は、銀行を対象とした国際金融規制を議論する場として設立された委員会。現在、日本を含む28の国・地域の銀行監督当局および中央銀行により構成されています。

会ほか五〇以上の作業部会に参加しますが、事前の資料作りにはかなりの時間を要します。

「担当者は、金融庁や日本銀行内の他部署と調整しながら、我が国としての方針を決めた上で、国際会議に向けた資料を作成していきます。その際、各国の主張、あるいは国際規制の影響を受ける日本の金融機関の問題意識についても情報を収集した上で議論に臨みます」

会議の後は関係者へ情報を還元するほか、結果を踏まえて対応方針を再検討したり、新たな課題へ取り組んだりします。

日本で国際会議を開催する場合もあり、その際ホスト役を務めるのも重要な業務です。それらの責務を確実に果たすための、国際課で求められる力、そしてそうした力を持った人材の育成について、小林さんはこう言います。

「国際課で求められる能力として、まずは多様な背景を持つ人を説得できる論理を構築できること。二つ目はその論理を相手にわかりやすく説明するコミュニケーション能力。三つ目は多様な人たちとの信頼関係を構築する能力。さらにその前提となる英語力。流ちょうでなくてもいい。論理的でわかりやすい英語力が大切なのです。」

このような力は一朝一夕には身に付かないため、個々人の自己研さんは欠かせませ

ん。ただそれだけではなく、職場としても、年齢や職位に関係なく、それぞれの経験を分かち合うようにしています。小さなことですが、お互いの気付きを促すためにそうした地道なことも大事にしています」

### 世界を広く捉える視点で重ねていく議論と調整

二〇〇七年以降の世界金融危機から得た教訓と、金融規制の大改革であるバーゼルⅢ等について、同課の伊豆田耕平さんはこう語ります。

「金融危機の教訓は大きく二つ挙げられます。一つは、国境をまたいで活動する金融機関の資本と資金繰りに関するもの。二つ目は、世界規模で活動する巨大な金融機関が無秩序に破綻すると、金融システムに大きな影響を与えるため、それを破綻させることができない、いわゆる『大きすぎたつぶせない問題』に関するものです。」

そうした教訓それぞれについて取り組みを進めています。前者は、金融経済環境が悪化しても、金融機関の経営の安定性が確保され、資金繰り不安が生じないよう金融機関に準備してもらうことです。もう一つは、世界規模で活動する巨大な金融機関には、相応の損失が生じても耐えられるよう、追加的な資本の積み増しを求めつつ、破綻処理の枠組みに関する整備などの対策を講

じることです。

金融危機では、危機に陥った金融機関に、公的資金、つまり国民の税金が使われる事例が見られました。金融規制改革の結果、事前の備えにより、できるだけ公的資金の利用に頼らずに処理をすることが展望されています」

伊豆田さん自身、こうした議論の場であるバーゼル銀行監督委員会の三つの部会に参加しています。

「日本の国益はもちろんですが、それを考えるだけでは十分ではありません。携わっていくうちに、世界のためということもより強く意識するようになりました。また、交渉担当者の入れ替わりはありますが、国際会議の議論における日本銀行への期待は変わりません。過去の交渉担当者が積み重ねてきたことの重みを感じながら、自分もそのバトンを次の世代につなげなければとの思いがあります」

### 大切なのは コロナ禍で得られた知見を 将来に活かすこと

バーゼルⅢの策定後には、その実施と影響評価に作業の重点が移ります、と同課の河内茂雄さんは語ります。

「バーゼルⅢは、合意自体が拘束力を持つ条約とは異なり、合意が実施されるかは、

(注2) 金融安定理事会 (FSB: Financial Stability Board) は、金融システムの脆弱性への対応や金融システムの安定を担う当局間の協調促進に向けた活動などを行っています。現在、日本を含む25の国・地域の中央銀行などから構成されています。

各国が合意内容に沿った国内ルールを策定するかに懸かっています。従って、バーゼル銀行監督委員会では、策定された規制が適切に実施されているか、各国に審査団を送るなどしてチェックするのですが、それにも私たちは関わっています。また、規制が想定していた効果を発揮したかという検証（影響評価）も大切です。問題があればさらなる議論を重ね、規制の修正などに向けた議論をしなくてはなりません」

その実施を前にして世界を襲ったのがコロナ禍です。

「まずは、金融機関がコロナ禍による影響への対応に集中できるように、バーゼルIIIの実施時期を、二〇二二年から二〇二三年へと一年延期しました。また、これ以外にもさまざまな対応策を決定したほか、現在も検討が続いています。これらの対応策については、全ての議論が対面ではなく電話会議などで行われるようになり、会議の回数が増えたためその資料準備などで忙しい毎日です。時差があるため、会議の開催が夜遅い時間になることも珍しくありません。コロナ禍がどの程度長引くのかなど不確実性が大きい上、各国の置かれた状況が異なるため、今後の対応についても難しい協議が続きそうです」

多忙な上、先を見通せない毎日が続きますが、河内さんの姿勢は前向きでした。

「現時点（六月末）では日本の金融システムは安定していますが、今のうちから、必要時に速やかに対策を実行に移せるよう準備しておかなくてはなりません。また、今回のコロナ禍で得られた知見を次世代に引き継ぐことが、来るべき将来の有事への対応力を高めることにつながるのです」

**遠い未来まで見据え  
多様なリスクに取り組む**

コロナ禍は予測が難しい出来事でしたが、国際的な金融システムの安定にとって将来的にリスク・脅威となり得る新しい課題も出てきており、各国間で話し合いが行われています。同課の山田隆人さんと前田佳菜実さんは、その一つであるデジタル化の進展と技術革新に伴うリスクへの対応に取り組んでいます。

「サイバー攻撃などはパターンが多様ですから、効果的に対処するためにも平時か有事かを問わず、民間部門や各国当局との連携が大切です。また、こうしたリスクに関する評価方法や金融システム全体的な分析結果などを共有しながら、有効な金融規制・監督の枠組みを探る必要があります。技術革新とともに金融サービスのリスク特性も刻々と変わるなかでは、常に将来の展開を想像力豊かに予測する必要があります。先々、銀行の業務プロセスや組織のあ

り方が大きく変わっていくと思われれます。目先の変化を追う一方で、数年後、数十年後の金融サービスの姿まで展望しながら布石を打っていくことも大事です」

環境の変化を柔軟に受けとめる若手の感性も存在感を増しています。米国の大学を卒業した前田さんもその一人。

「国際的な議論の最先端に位置する部署なので仕事は大変ですが、新しい技術やそれらを取り巻くチャンスとリスクをしっかりと学び、金融システムの頑健性の向上に向けた取り組みに参画していきたいと思っています」

暗号資産（仮想通貨）の登場もまた、今後の重要な検討課題だと話すのは、同課の藤本啓さんです。

「暗号資産に関するリスクは、既存の規制、監督の枠組みでは必ずしも明示的には想定されていません。今後急速に利用が広まるなかで、想定されなかったリスクが顕在化すると、金融安定上の脅威ともなり得ます。そのため、規制当局の間で強い問題意識を共有しており、精力的に議論が進められています」

その上で、藤本さんはこう強調します。「国際的な協調のもとで、金融機関を監督し、リスクや脆弱性をコントロールしていかなくはなりません。状況は急速に変化していきます。国際交渉の場で海外の





電話会議の様様。会議前の対処方針の作成は必須（昨今はマスク着用で参加）。なお、最近では、テレビ会議システムを用いる会議も増加しています。

担当者と同じ土俵で議論できるよう、常に最新情報を逃さないよう努めています」

気候変動といった、一見金融との関係が想像しにくいことが金融システムの安定に影響することもある、と語るのは、同課の白木紀行さんです。

「日本でも毎年のように甚大な自然災害が発生しています。そうした災害により、広い範囲で建物が壊れるなど資産価値が損なわれると、被災した個人や企業だけではなく取引している金融機関、ひいては金融システム全体に影響を及ぼす可能性がある

わけです。また、昨今話題になっている低炭素社会の実現に向けた取り組みの過程では、環境規制の導入やそれに伴う産業構造の変化が、中長期的に温室効果ガスの排出が多い産業に属する企業の価値（株価）や資産価格に影響を及ぼす可能性もあります。気候変動は、国際的に取り組む課題ですが、そうしたことが金融面に及ぼす影響についても、国際的な協調のもとで議論を進めておく必要があるのです」

気候変動は他の金融リスクに比べると、長期間にわたり影響を及ぼすほか、影響が見通しにくいことが特徴だとも言います。

「二〇〇年後に気温が何度上がるかなど、地球温暖化の議論は予測が難しい。ただ、その分野の研究は日々進歩していますので、最新の研究を追いながら知見を蓄えつつ、調査・分析を行い、しっかりとした根拠に基づく国際的な議論に貢献したいと思っています」

\*\*\*\*\*

国際課の皆さんに共通しているのは、日本銀行員として国際交渉の最前線に立つという自負と責任感、専門分野に限らず広くアンテナを張り巡らせた情報収集力、そしてあらゆる事態の想定に努める妥協なき姿勢です。

「これまでに起きた危機と同じ程度のシヨックを前提としたストレステストに加

え、通常では想定しづらいリスクを想定するシナリオ分析などを参考にしながら、検討作業を行うことが重要です。豊富な専門知識はもちろんですが、想像力も駆使しながら常に思考実験を行っています」

そう語る課長の小林さんは、国際課において国際金融規制、監督に向けた国際的な議論をしていく上で大事なことを四つ挙げました。

「まずは先を見据え、新技術や金融環境の変化を考慮した上での制度設計、次にその制度の着実な実施、そして、作った制度の効果と副作用の評価、さらには副作用が効果を上回る場合における、制度の改善に向けた取り組み、です。国際交渉というと華やかな世界を想像されるかもしれませんが、計画↓実行↓評価↓改善という地道な作業の繰り返し。こうした作業を粘り強く行うことが大事です。また、交渉事ですから、私たちの意見が十分反映されないこともありますが、諦めないことです。時を経て状況が変わると、以前の私たちの提案が再評価されることもあります。諦めない粘り強さが私たちには常に求められるのです」

金融システムの安定は、結果的には私たちのライフラインと直結します。私たちの日々の生活に貢献できるように、国際課職員は粘り強く取り組んでいます。



# 日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)を決定し、公表しています。本稿では、2020年7月の展望レポート(基本的見解は7月15日、背景説明を含む全文は7月16日公表)のポイントを解説します。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。 <https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

## 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)

— 二〇二〇年七月 —

### 二〇二〇～二〇二二年度の 中心的な見通し (図表1、2)

#### 【景気】

経済活動が再開していくもとで、本年後半から徐々に改善していくとみられるが、世界的に新型コロナウイルスウイルス感染症の影響が残るなかで、そのペースは緩やかなものにとどまると考えられる。その後、世界的に感染症の影響が収束すれば、海外経済が着実な成長経路に復していくもとで、わが国経済はさらに改善を続けると予想される。

#### 【物価】

消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、当面、感染症や既往の原油価格下落などの影響を受けて、マイナスで推移するとみられる。その後、経済の改善に伴い物価へ

の下押し圧力は次第に減衰していくことや、原油価格下落の影響が剥落していくことから、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、プラスに転じていき、徐々に上昇率を高めていくと考えられる。

### 経済・物価のリスク要因

#### 【先行きの経済・物価見通しの不確実性】

こうした先行きの見通しについては、感染症の帰趨やそれが内外経済に与える影響の大きさによって変わり得るため、不透明感がきわめて強い。また、上記の見通しは、大規模な感染症の第二波が生じないことに加えて、感染症の影響が収束するまでの間、企業や家計の中長期的な成長期待が大きく低下しないことや、金融システムの安

定性が維持されるもとで金融仲介機能が円滑に発揮されることなどを前提としているが、そうした前提には大きな不確実性がある。

#### 【リスクバランス】

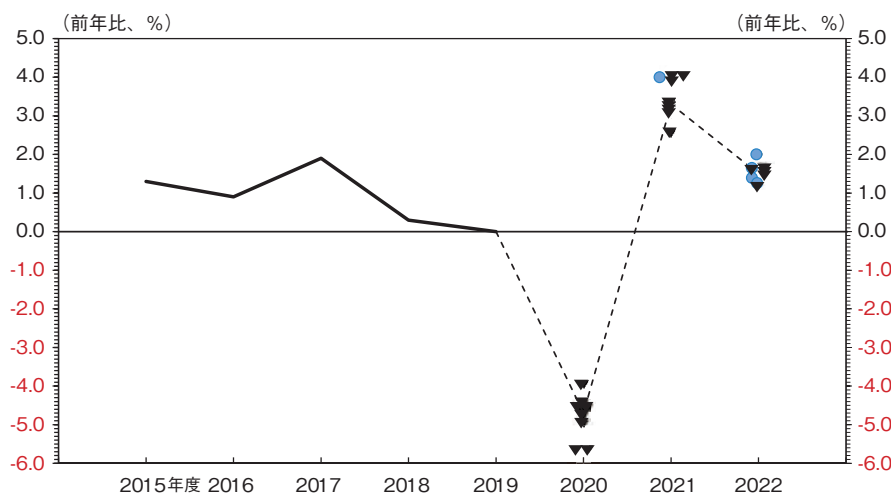
リスクバランスは、経済・物価のいずれの見通しについても、感染症の影響を中心に、下振れリスクの方が大きい。

#### 金融政策運営

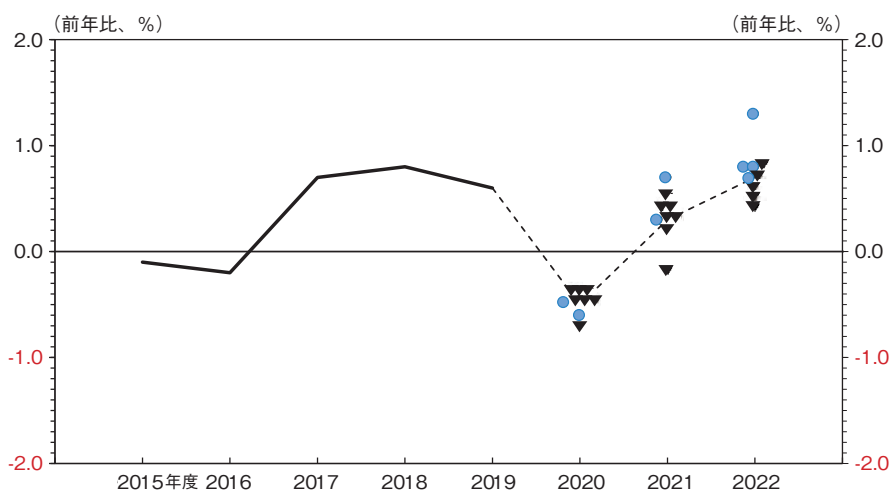
二%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する。マネタリーベースについては、消費者物価指数(除く生鮮食品)の前年比上昇率の実績値が安定的に二%を超えるまで、

図表1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価

(1) 実質 GDP



(2) 消費者物価指数 (除く生鮮食品)



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ●、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すとともに、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。●は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

(注3) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) の2015年度については、2014年4月の消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

拡大方針を継続する。引き続き、  
① 新型コロナウイルス対応資金繰り支援特別プログラム、② 国債買入れやドルオペなどによる円貨および外貨の上限を設けない潤沢な供給、③

ETFおよびJ-REITの積極的な買入れにより、企業等の資金繰り支援と金融市場の安定維持に努めていく。当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、必

要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる。政策金利については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している。

図表2 政策委員の大勢見通し

(対前年度比、%)

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	(参考) 消費税率引き上げ・教育無償化政策の影響を除くケース
2020年度	-5.7 ~ -4.5 <-4.7>	-0.6 ~ -0.4 <-0.5>	-0.7 ~ -0.5 <-0.6>
(4月時点の見通し)	(-5.0 ~ -3.0)	(-0.7 ~ -0.3)	(-0.8 ~ -0.4)
2021年度	+3.0 ~ +4.0 <+3.3>	+0.2 ~ +0.5 <+0.3>	
(4月時点の見通し)	(+2.8 ~ +3.9)	(0.0 ~ +0.7)	
2022年度	+1.3 ~ +1.6 <+1.5>	+0.5 ~ +0.8 <+0.7>	
(4月時点の見通し)	(+0.8 ~ +1.6)	(+0.4 ~ +1.0)	

(注) <>内は政策委員見通しの中央値。「大勢見通し」は、各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。4月時点の大勢見通しは、各政策委員が最大1.0%ポイントのレンジの範囲内で見通し(上限値・下限値の2つの値)を作成し、9名の政策委員の見通し値(上限値・下限値)のうち上から2個、下から2個、計4個の値を除いて、幅で示したものである。そのため、今回の大勢見通しとは異なることに留意が必要である。



# 日本銀行のレポートから

「地域経済報告」（さくらレポート）は、日本銀行本支店等が、日頃、企業ヒアリング等を通じて行っている各地域の経済金融情勢に関する調査の結果を、年4回（1月、4月、7月、10月）の支店長会議の機会毎に取りまとめたものです。

\*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

## 「地域経済報告」（さくらレポート）

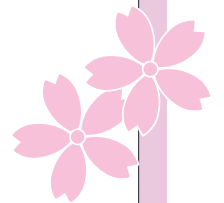
### 各地域の 景気判断の概要

— 二〇二〇年七月 —

各地域の景気の総括判断をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、前回（二〇二〇年四月時点）に続き、全ての地域が判断を引き下げており、「悪化している」または「厳しい状態にある」などとしている。

	【20/4月判断】	前回との比較	【20/7月判断】
北海道	新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、下押し圧力の強い状態にある	▲	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、大幅に悪化している
東北	新型コロナウイルス感染症の影響などから、このところ弱い動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響などから、悪化している
北陸	新型コロナウイルス感染症の影響などから、弱めの動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響などから、大幅に悪化している
関東甲信越	新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、このところ弱い動きとなっている	▲	内外における新型コロナウイルス感染症の影響により、きわめて厳しい状態にある
東海	新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、下押し圧力の強い状態にある	▲	改善に向けた動きがみられ始めているが、厳しい状態にある
近畿	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、弱い動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化した状態が続いている
中国	新型コロナウイルス感染症などの影響から、このところ弱い動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響から、大幅に悪化したあと、厳しい状態が続いている
四国	新型コロナウイルス感染症の影響から、このところ弱めの動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている
九州・沖縄	新型コロナウイルス感染症などの影響から個人消費や輸出・生産を中心にこのところ弱い動きとなっている	▲	新型コロナウイルス感染症の影響から悪化している

（注）前回との比較の「▲」、「▲」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「▲」）。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「▶」となる。



## 令和二年七月豪雨に伴う災害に対する日本銀行の対応

▼令和二年七月豪雨に伴う災害により被害を受けられた被災者の皆さまに対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

▼日本銀行では、各地の財務局等とともに、令和二年七月豪雨に伴う被害により災害救助法が適用された山形県、長野県、岐阜県、島根県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、鹿児島県の金融機関等に対し、預金通帳や印鑑を紛失した場合における預金の払い戻しなどについて、適切な措置を講じるよう要請しました。

## 「決済の未来フォーラム」を開催（二月・五月）

▼日本銀行決済機構局では、二月二十七日に、「決済の未来フォーラム」中銀デジタル通貨

と決済システムの将来像」を、五月十三日に、「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会」をそれぞれ開催しました（後者は電話会議形式）。両会合には、業界団体、金融機関、ノンバンク決済事業者、シンクタンク、学者、官庁等、広範な方々が参加され、活発な議論が交わされました。

▼昨今、Telex社が発行を検討している「リブラ」など、デジタルマネーを巡る諸問題に対する注目が高まっています。

こうしたことを踏まえ、二月のフォーラムでは、「リテール決済（個人間あるいは企業と個人間の決済）」、「ホールセール決済（銀行間の決済）」、「クロスボーダー送金（国際送金）」という既存の三つの決済サービスの問題点をどう改善していくべきか、また、中央銀行が発行するデジタル通貨（CBDC）

＝ Central Bank Digital Currency)

発行の利点やリスクをどう考えるかを議論しました。

▼冒頭、あまみやまよし雨宮正佳副総裁は開会の挨拶の中で、決済システムとマネーについての展望や、CBDCの発行における論点などを提示しました。その後、フロア討議を行いました。

▼リテール決済については、複数の決済手段間で十分な連携ができていないことが、消費者の利便性を損ねているとの指摘がありました。

その解決策として、例えば、①これまで金融機関しか参加し



雨宮副総裁による開会挨拶（撮影：中島美沙）

ていない全銀システムへのノンバンク決済事業者の参加、②銀行とノンバンク決済事業者が参加する新たな決済システムの構築、③銀行券の代替としての一般利用を目的としたCBDCの発行、などについて議論されました。CBDCについては、期待の声とともに、民間との競合の問題や技術的な課題を指摘する意見が聞かれました。

▼ホールセール決済については、新しい技術（注1）を活用した新たな決済基盤の構築や、それを起点としたさらなる技術革新の可能性などについて複数の見解が示されました。また、即時クロス決済システム（注2）の稼動時間延長等、既存の決済システムを改善する方法の利点も示されました。

▼クロスボーダー送金については、国内の送金と比べて、手数料が高い、送金に時間を要するなどの課題がある中で、その背

景や改善に向けた取り組みについてさまざまな認識や見解が示されました。

▼また、五月に開催したクロスボーダー送金分科会では、国際送金にかかる国際的な規制・監督の在り方や、新しい枠組みだけでなく、既存の取り組みやインフラの活用・向上（注3）が国際送金の改善につながり得るとの意見が聞かれました。

一方、日本から海外への少額送金事業については、サービス提供者も相応の費用を負担しており、こうした少額送金事業単体での収益化が難しいとの指摘がありました。その背景には、国際的な要因のみならず、日本固有のビジネスモデルや決済システム構成、事務カルチャーなども挙げられ、今後の継続的な議論の必要性がうかがわれました。

▼「決済の未来フォーラム」の議事要旨などは、日本銀行ホームページ

ムページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



（注1）分散型の（集中管理しない）、デジタルに記録される取引台帳の技術。

（注2）中央銀行における金融機関間の口座振替の手法の一つで、金融機関から中央銀行に口座振替指図が持ち込まれ次第、一つ一つ直ちに決済が実行される仕組み。

（注3）送金の際に標準化された電文メッセージの利用拡大などを指す。

### 決済機構局内に「デジタル通貨グループ」を新設しました

▼日本銀行では、二〇二〇年七月、決済機構局内に、決済システム全体のデジタル化と中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する事項を所掌する「デジタル通貨グループ」を新設しました。

### 「おうちで、にちぎん」（オンライン本店見学）の公開開始について

— 本店新見学コースの3D・VR映像を初公開 —

▼日本銀行では、展示を拡充し



た上で、本年春頃に本店本館（国指定重要文化財）（注1）の見学を全面再開する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、延期しています（本店見学の最新の情報に



## 編集後記

■コロナ禍の中で学校は短い夏休み。帰省や旅行もしづらく異例の夏でしたが、近所の商店街の気になるお店など、地元の魅力を再発見する良い機会になったように思います。ただ、4月に休業したまま廃業になったお店も散見され、行列だったのに……と残念な気持ちは否定できません。一方で、すし屋やフランスベーカリーの新規開業もあり、人間の営みのダイナミズムを感じます。

さて、今号のインタビューでは、声優界のレジェンドともいわれる野沢雅子さんにご登場いただき、声優という仕事にける思いや魅力、喜びを語っていただきました。対談では、クラシックの枠を超えて活躍されているバイオリニストの川井郁子さんに、楽器や楽曲の魅力、今後の活動の方向性をお伺いしました。それぞれの道を究められたお二方、奥深いエピソードが満載です。

新潟県の十日町市は、縄文ファンにとって聖地。土器の火焰からはある種の生命力を感じます。太古の時代から雪深いなかで受け継がれてきた地域の創造的な土壌が、今世紀において大地の芸術祭をもたらしたともいえるのではないのでしょうか。(林)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([https://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](https://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<https://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2020年秋号  
編集・発行人 林 新一郎  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 文唱堂印刷株式会社  
禁無断転載

については、日本銀行ホームページをご確認ください。  
▼こうした中、ご自宅等から日本銀行本店の新見学コース(注2)をお楽しみいただけるよう、3DやVRの映像を活用したオンライン本店見学「おうちで、にちぎん」を、六月三十日(火)より公開しました(注3)。パソコンやスマートフォンから3Dビューを楽しめるほか、スマー

トフォンとVRゴーグルがあれば、VR体験が可能です。

▼この機会にぜひ日本銀行ホームページの「おうちで、にちぎん」にアクセスして、日本銀行本店の新見学コースを存分にお楽しみください。

(注1) 日本人建築家による最初の国家的近代建築。欧米の銀行建築を学んだ辰野金吾による古典主義様式で、明治二十九年(一八九六)

に竣工しました。

(注2) 新見学コースの内容については、広報誌にちぎん2020年夏号(二〇〜二四ページ)をご覧ください。



(注3) 映像の作成に当たっては、一般社団法人VR革新機構が行う、新型コロナウイルス感染症の影響により休館している施設へのボランティア撮影の取り組みを活用しました。

子ども向け  
学習用資料リンク集を  
リニューアルしました

▼日本銀行では、「お金」や「日本銀行」などについて学べる資料や、日本銀行本店で実施していた親子見学会の一部をご自宅で体験できるコンテンツ等をホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。





にちぎん